



TITLE:

太閤檢地ノ研究

AUTHOR(S):

牧野, 信之助

CITATION:

牧野, 信之助. 太閤檢地ノ研究. 經濟論叢 1917, 4(4): 506-520

ISSUE DATE:

1917-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127191>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第四卷 第四號

大正六年四月一日發行

論說

Unto this Lastヲ讀ム(一).....法學博士 河上 肇

官業問題ニ就キテ(三)完.....法學博士 神戸 正雄

我取引所擔保業務ト保險事業トノ差異.....法學士 小島昌太郎

太閤檢地ノ研究.....法學士 牧野新之助

參觀交代制度ノ經濟觀(二).....法學士 本庄榮治郎

時事問題

支那ノ立國策ト其參戰問題.....法學博士 戸田 海市

對印爲替問題.....法學博士 神戸 正雄

雜錄

世界金融ノ中心トシテ倫敦ノ地位.....法學博士 神戸 正雄

續市統計所小觀.....法學博士 財部 靜治

歐米ニ於ケル勞働組合ノ近況.....法學士 山本美越乃

長野縣ノ蠶絲業.....法學士 河田 嗣郎

太閤檢地ノ研究

牧野信之助

豊臣秀吉ノ檢地、所謂太閤檢地ハ、我國土地制度ノ一大變革ナリ。中世莊園時代ニ於ケル錯雜極マリナキ土地丈量ノ私法、コノ時ヲ以テ定マリ、石高ノ法ソノ標準ヲ示シ、以テ天下一統ノ實ヲ完備セシメタリ。然ルニコノ檢地ノ實際ニ至リテハ、未ダ充分ニ研究セラレタリト云フヲ得ズ第一ニソノ行ハレタル時日ニツイテモ從來ノ所説充分ナラズ。斗代ノ法、新高檢出ノ程度、若シクハ除地ノ理由等ニツイテモ説クコト明確ナラズ。今コノ不備ヲ補足センガ爲メニ、コノ種研究ノ根本史料タル檢地帳及ビ檢地關係ノ書狀ヲ用キテ、ソノ事實ヲ闡明セント欲ス。而シテソノ敘述ニ入ルニ先チ、少シク申シ置クベキコトハ、コノ研究ニ使用セントスル史料ガ殆ド越前ノ一部ニ限ラレタルコトコレナリ。

大閤檢地ハ、從來一般ノ説クトコロニヨルモ、天正ノ中年ヨリ文祿ニ亘リ、ソノ地域ハ殆ド全國ニ遍シト云フ。然ルニ越前ノ檢地ハソノ中ノ短日時一局部ニ過ギザルニ關ハラズ、根本史料ノ割合ニ豊富ナルコトト、ソノ根本史料ニヨリテ見出サレタル檢地ノ行ハレタル時日ガ從來ノ所説ヲ補正スル點ニ於テ、ソノ特色ヲ有スルナリ。

檢地ノ時日。大閤檢地ノ始期ハ未ダ充分ニ知ラズト雖、天正十二年頃ヨリ着手シ爾來各地征

服毎ニ之ヲ行ヘリト云フ説、大體ニ於テ一致セルモノノ如シ。山城石清水八幡狭山郷檢地帳天正十二年十月十七日ノ日附アルモノ(石清水所收文)ソノ所見ノ一ナリ。然ルニソノ終期ニ至リテハ大抵ノ地方書類等文祿ヲ以テ終ルトナシ、慶長ニ亘ルトセルモノ少シ。唯地方落穂集ニハ「大閣檢地歩數之事」ノ一節ニ「一、太閤秀吉公天下を掌握の後、慶長年中是乗坊算術の達人に仰て諸國を檢地す、越前國に至て太閤他界有によつて半にして止、依レ之今に古代の檢地殘て所々に有」トアリテ、檢地ヲスベテ慶長年中ノコトトセリ。コレ明ラカニ謬説ナレドモ、越前ニ至リテ太閤他界有ニヨツテ半ニシテ止ムト云ヘルハ、根據アル所説ナリ。又地方凡例錄ニハ「昔西國ヨリ國々ニ檢地シテ越前へ至ル時豊臣公薨去ニ付彼國マデニ止テ夫ヨリ東ハ此事ナシ」ト説キ檢地ノ事實ヲ誤リ傳ヘシガ、豊公薨去ニ付越前ニ止ムトナセルハ以テ慶長ニ亘レルヲ示スモノナリ。

第一表

檢地日附	場	所	憑據書類
慶長三・六・九 <small>年月日</small>	敦賀郡富谷	檢地帳	
同・同・二二	南條郡鑓物師	同	
同・同・二五	大野郡横倉	同	
同・同・二七	足羽郡三尾野出作	同	
同・同・二八	大野郡竹林	同	
同・七・一〇	大野郡大野	黒光寺文書	

檢地日附	場	所	憑據書類
慶長三・七・一六 <small>年月日</small>	坂井郡石塚	太閤檢地水帳寫	
同・同・同	敦賀郡足田	檢地帳	
同・同・同	同 奥野	同	
同・同・一七	足羽郡木田	福文書	
同・同・一八	大野郡折立	檢地帳	
同・同・同	丹生郡戸部杉本	同	

慶長三・七・一〇 ^{年月日}	坂井郡儀萬	大関檢地水帳寫
同・同・一一	丹生郡天王	高橋文書
同・同・一二	坂井郡山鹿	大関檢地水帳寫
同・同・一五	鳴鹿	同
同・同・同	粟田島	同
同・同・同	末廣	同
同・同・同	上金屋	同
同・同・同	寄水	同
同・同・同	足羽郡下江守	深草文書

慶長三・七・一八 ^{年月日}	大野郡五條方	檢地帳
同・同・同	敦賀郡原	西福寺文書
同・同・一九	同 大比田	檢地帳
同・同・二一	足羽郡半田	同
同・同・二七	敦賀郡栗原	澤崎文書
同・同・ ^(日附缺)	坂井郡瀬谷	大関檢地水帳寫
同・同・同	堂氣	同
同・同・同	同 覺善	同
同・同・同	今立郡大本	檢地帳

以上ノ三十三ヶ所ハ、モトヨリ一國全體ヨリスレバ一小部分ニ過ギザレドモ、各郡ニ亘リテ出來得ル限リソノ檢地帳并ビニ之ヲ證スルニ足ル文書ノ存在スルモノヲ選ビ記シタルモノ、以テ越前ノ檢地ガ慶長三年ノ五月下旬乃至六月初旬ニ始マリ七月ノ下旬ニ至レルヲ知ルナリ。

但シ檢地帳ニ記サレタル日附ハ、必ズシモ丈量ノ行ハレタル當日ニアラズシテ、一村ニ數日ヲ費シ若シクハ施行後久シキ後帳簿ヲ作成シタル場合アルナリ。例ヘバ敦賀郡原村ノ檢地ハ檢地帳奥書ニハ七月十八日トアレドモ、同地ノ檢地ニ關シ大谷吉繼ヨリ西福寺ニ出セル書狀ニ六月二十九日附ノモノアリ。文中「今度御檢地に付御寺領之儀無異儀被相除候由尤目出度」(西福寺文書)ト云ヒ六月十三日附ノ百姓連名書狀ニ「此般御檢地に付て郡内悉あらたまり申候故寺門前新恩に御長老様へまいらせられ候」ト云ヘルヲ以テ考フル時ハ、檢地帳ヲ出セル時ト丈量ノ時トノ間ニハ相當ノ時日ヲ要シタルナリ。又總奉行長束正家ノ如キモ七月以後ノ檢地帳ニソノ署名アレドモ、三河

記ニヨレバ五月下旬下國シ六月中旬ニハ既ニ伏見ニ召還セラレタルナリ。

次ニ檢地ニ從事セシ奉行ハソノ員數一時ニ十數人ニ上リ、各奉行ハ單ニ一村押シニ之ヲ檢セシニ止ラズ、事業進歩ノ程度ニヨリ分擔地以外ニ亘リテ之ヲ助ケ、出來得ル限り短時期ニ完了センコトニ努メタリ。秀吉事記ニ天正十八年ノ檢地ヲ敍シテ「渡ニ以上十七ヶ國知行ニ并ニ大綱ニ入ニ鹿細ニ三ヶ日之内相究者也寔非ニ天才者爭制レ之玄哉妙哉」ト頌シタルハ、少シク誇大ノ言ナレドモ、奉行等ヨク主命ノアル所ヲ諒シ、神速事ヲ處シタリシハ疑ヲ容レザルトコロナリ。コノ時ノ奉行、長束正家ヲ始メトシテ、御牧勘兵衛、木村宗右衛門、朽木河内守、駒井中務少輔、井上新介、林傳右衛門、小堀正介、伊東丹後守、吉田益庵、以眞、東林、藤太等ノ人々アリ。

コレヨリ先キ秀吉慶長三年五月病ヲ獲、漸次重態ニ陥リ、七月十五日ニハ利家邸ニ諸將誓文ノコトアリ。八月十八日ニハ遂ニ薨去シタリ。サレバコノ檢地ノ行ハレタル頃ハ、恰モ伏見ノ動搖ソノ絶頂ニ達セントシタルノ時ナリ。故ニ史料ノ上ヨリハ直チニ越前ノ檢地ガ「太閤の他界有によつて半にして止む」ト云ヘルコトハ直接證スルヲ得ザレドモ、長束正家召還ノコトアリ、旁カカル時期ニ際シタルハ明ラカナリトス。又越藩雜記、越更夜話等ノ雜史ニ「太閤御他界故、檢地相止みし由、今金津臺、東大味^{○共に坂井郡にあり}の山にも繩を埋めし迹あり」トアルヲ信ズレバコノ檢地ハ秀吉最後ノ事業タリ。「山のおく海はろかいのつゞく迄」ト傲語セル秀吉全國檢地ノ大抱負ハ果シテソノ臨終ニ至ルマデ之ヲ連續シタルナリ。

新檢及ビ斗代。 檢地帳ノ奥書ニハ一定シテ左ノ條文ヲ記載セリ。

- 一、六尺三寸の棒を以五間六十間三百歩一段ニ相定事
- 一、田畠井在所之上中下能々見付斗代相定事
- 一、口米壹石に付て貳升宛其外役米一切不可出事
- 一、京升を以年貢可致納所候うりかひも同升たるへき事
- 一、年貢米五里百姓として可持届其外は代官給人として可被持事

以 上

年 月 日

奉 行 名 (花押)

コノ第一條ニ見エタル反別面積ハ太閤檢地ニヨリテ爲サレタル最大變革ナリ。大體ニ於テ各國トモ從來ハ三百六十歩一反ニ準據セシガ故ニ、新檢ノ結果概シテ出歩ヲ見タリ。今越前ノ場合ニ徴スルニ、コノ出歩ハ第一反別法ノ差異ヨリシテ舊一反三百六十歩ニ對スル新定ノ一反三百歩即チ一反毎ニ六十歩(二畝)ノ過剩ヲ見、第二ニ測量ノ正確綿密ヨリ生ズル出歩額ル大ナルヲ見ルナリ。此等ノ出歩ニ對シテ更ニ綿密ナル斗代ノ査定アリ、カクシテ石高ノ増加トナレリ。コノ斗代トハ新ニ丈量シタル總テノ地類ニ亘リ、ソノ肥瘠如何ヲ檢シテ一反ニ何程ト云フ石盛ヲナセルヲ云フナリ。石高コレニヨリテ表ハサルナリ。コノ斗代ノ査定ニツイテハ檢地ノ際ニ當リテ周到ナル注意ヲ拂ハシメ、以テ公平ヲ失スルナカラシメタリ。コレ檢地帳奥書ノ第二條ニ「田畠井在所之上中下能々見付斗代相定事」ト示セルコトニシテ、淺野家文書ニモ「斗代等之儀、任御朱印旨、何も所々いかにも入念可申付候、若そさうに仕候は、各可爲越度候事」(淺野家文書天正十八年八月十二日秀吉書狀)ト云ヘルモノ、以テ參照スベキナリ。故ニ檢地帳ニヨリテ一々ソノ査定セラレタル結果ヲ見ルニ、殆ド

各村ノ租率一定セズ。同ジク上田ト稱スルモ地味如何ニヨリテハ著シク相違シ、又村落ノ位置如何ニヨリテハソノ地類ノ區分モ頗ル細密ニ亘ルヲ見ルナリ。

左表は、(一)山村、(二)出作地、(三)平原地、(四)河岸地、(五)山村兼河岸地ヲ選ビテソノ各斗代ヲ示スモノトス。

第二表

村名	地類	上田	中田	下田	田下々	荒屋敷	上畑	畑	麻畑	中畑	下畑	下々	荒畑	河原	山畑	中田	下田	中畑	下畑
(一)南條郡鑛物師	石斗	一・七	一・六	一・五	一・四	一・三	一・二	一・一	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
(二)足羽郡三尾野		一・六	一・五	一・四	一・三	一・二	一・一	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
(三)足羽郡半田		一・八	一・六	一・五	一・四	一・三	一・二	一・一	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
(四)坂井郡山岸		一・六	一・五	一・四	一・三	一・二	一・一	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
(五)南條郡大河原		一・五	一・三	一・九	一・一	一・三	一・一	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇

高及ビ物成。太閤檢地ハ石高ノ檢出カクノ如クナルニ係ハラズ、ソノ物成——租税ニ至ツテハ概シテ之ヲ前代ニ比シテ輕減シタル事實アリ。而モ猶場合ニヨリテハ臨時ノ檢見ヲ命ジテ苟モ不公平ナカラシメンコトニ力メタリ、越前ノ場合ニハアラザレドモ檢地書類ノ中ニ「損免事立毛之上見斗上中下有様に物成可召置候」(長井文書、年號不詳、霜月五日附秀吉)ト見エタルハ、ソノ明證ナリトス。

カクシテ今直チニ一般ニ就キ之ヲ云フコト能ハザレドモ、少クトモ越前ノ場合ニアリテハ一方課税ノ目的物タル高ノ檢出ニ努メタルト共ニ、ソノ租税ヲ輕減セルモノト云フヲ得ベシ。

左表ハ「慶長三年九月吉日大谷刑部少輔御知行分越前府中村在々高目録」ト題スル書類即チ敦

賀城主大谷吉繼ノ知行所ノ内南條、丹生、今立三郡ニ亘リテソノ高ヲ記セルモノニヨリ作製シタルモノ以テ太閤檢地ノ擧ガ如何ニ従前ノ土地及ビ課税ノ上ニ變動ヲ來セルカヲ徵スベシ。慶長三年九月ハ即チ秀吉ノ薨後一ヶ月、檢地終了後二ヶ月ノコトニシテ、ソノ高ノ目錄ハスベテ新檢ノ結果ヲ寫セルコト之ヲ各村所藏ノ檢地帳ニ對照シテ知ルベク、史料トシテ尤モ正確ナリトス。

第三表

村名	先高	檢地高	増	分	百石ニ付増
鯖波	三石・六石	三石・六石	七・三石	三石・六石	三石・六石
奥野	三石・六石	三石・六石	三・三石	三・三石	一〇・四石
篠物	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
西脇	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
塚本	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
白旗	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
四日	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
春野	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
池上	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
廣瀬	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
上下	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
四日	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
高森	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
丹根	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
横根	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
三山	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石
北谷	二石・四石	二石・四石	二・四石	二・四石	二・四石

太閤檢地ノ研究

第四卷 (第四號 四七) 五二三

[illegible]

小	二九・四〇	三二・六六	(一)	六・六三	五〇・〇〇	三六・〇〇	(一)	二四・〇三
木	三三・〇一	三二・〇四	(一)	一・三〇	三三・〇〇	三六・〇〇	(一)	一・〇〇
戸部	一四・四一	三二・四三	(一)	五・四四	三三・一〇	二二・〇〇	(一)	三三・一〇
杉	一六・三三	一五・八八	(一)	五・〇一	三〇・〇〇	四〇・〇〇	(一)	一〇・〇〇
本	二二・四三	一〇〇・一五						
計	平均 (全形ノ物成ニ依テ 其々陰シタルモノ)	〇・五九	〇・五九					

コノ第二表ノ示ストコロニヨレバ、五十一ヶ村ノ新検中、先高ニ比シテ減少ヲ來セルハ僅カニ丹生郡千合谷ノ一ヶ村ニ止リ、ソレスラ百石ニ對スル十七石ノ比例ニ止ルナリ。然ルニソノ他ノ五十ヶ村ハスベテ増分ヲ見タルコトニシテ、百石ニ對スル増分五十石以上ナルモノ二ヶ村アリ。ソノ實數ヨリスレバ廣瀬ハ一千八百二石五斗二升ヨリ二千四百四十三石六斗ヲ得、安養寺ハ九百八十二石四斗二升ヨリ一千四百六十五石二斗六升六合ニ上レルナリ。カクシテ總額ニ於テ四千四百餘石、平均數ノ示ストコロニヨレバ百石ニ對シ約二十七石餘ノ檢出アリタルコトトナルナリ。次ニ物成ノ賦課ニツイテ一瞥スルニ五十一ヶ村ノ内ソノ率ヲ増加セラレタルモノハ一ヶ村ノミニシテ、他ハスベテ輕減セラレタリ。殊ニ百石ニ對シテ三十石以上ノ割合ヲ以テ減額セラレシモノ三ヶ村アリ。全體ヲ平均シテ百石ニ對スル約十二石ノ割合ヲ以テ減少ヲ示セルナリ。是ヲ新檢地ノ總結果ヨリ見ルトキハ、高ニ於テ四千四百餘石ノ増加ニ對シソノ物成ハ三百十石餘ノ増加ニ止ルナリ。

以上物成ノ外コノ時小物成ヲモ精査シテ之ヲ賦課シタリ。從來ト雖ソノ目ナカリシニアラザルモ新檢ニアリテハ一層確實ニ之ヲ調査シ課稅ノ目的物トナセルナリ。小物成ハ即チ山手米、馬借

米、海成等ヲ總稱スルモノナリ。今表示セラレタル五十一ヶ村ニツイテ之ヲ見ルニ小物成ヲ増課セラレタルモノ四十ヶ村ニ亘レルナリ。

又檢地帳奥書第三條ニヨレバ、代官ノ口米一石ニ二升ノ賦課アリ、新檢高二萬一千餘石ニ對シテ四百二十餘石トナルベシ。カクシテ新物成ニコノ新小物成及ビ口米ヲ加フル時ハ、總額ハ新課税ノ方一層多額トナリ、反テ先物成ヨリモ増率ヲ示スガ如キモ、而モ新檢以前猶同ジク物成以外ニコ米ソノ他ノ賦課アリシナリ、唯高目録ニハソノ記載ヲ省ケルヲ以テ一々之ヲ各村ニ當テ箝メテ之ヲ示ス能ハザルノミ。故ニ第四表ニ示シタル物成ノ率ニヨリテ考察スルトキハ、當物成ハソノ割合ヲ輕減セラレタリト云フヲ得ベキナリ。即チ先物成ハ總高一萬六千餘石ニ對シ九千七百餘石ナレバ粗々六公四民ノ率ニ當リ當物成ハ總高二萬一千餘石ニ對シ一萬餘石ナレバ大略五公五民ノ率ニアルナリ。

豊臣家譜ヲ見ルニ「天下之賦税三分二者地頭取之、三分一者耕民可自取之、懼莫使田畝就荒蕪也」、トナシタレドモ、コレ恐ラクハ大數ヲ示スニ過ギザルベシ。徳川時代ノ論者亦多ク太閤檢地ヲ目シテ聚斂ニ過グトナセドモ、如上ノ例ヲ以テスレバ必ズシモ一概ニ論斷スルコト能ハザルナリ。

除地ノ理由。太閤檢地ハ殆ドスベテノ地類ニ亘リテ丈量ヲ行ヒタリト雖、猶竿入ヲ免ゼラレタル除外地アリ。コノ除外地ノ性質ハ頗ル複雑ナリト雖、檢地當時ノ書類ニ徵スル時ハ粗々ソノ一斑ヲ察知スルニ足ルモノアリ。第一特別ノ由緒ヲ有スル寺社、并ビニソノ附屬地、若シクハ豪族

名門等ノ屋敷地ハ先規ニ從ヒ竿入ヲ免ジタリ。

「已上

越前國就御檢地ニ天王村(○丹生郡 木村宗左衛門尉ニ被仰付候然所ニ應神天王御神領從先喜任有來候

一寺屋敷一所

一田 五段

其外堂前之廻押入不申普進仕候於後日相違有開敷候爲其一札如此候仍貴進狀如件

慶長三年七月十一日

木村宗右衛門尉内

山本乙右衛門尉(花押)

高橋良珍

(高橋文書)

コレ應神天王社ガ由緒ノ神領地ヲ有スルニヨリ、先規ニ從ヒテ之ヲ免除シ、竿入ヲ避ケタルナリ。

「以上

其方居屋敷之事任御判之旨
(意脱カ)
檢地相除候從御掟可得其候也

七月十七日(○慶長三年)

長東大藏正家(花押)

橋屋敷

(橋文書)

橘家ハ北ノ庄ノ名家ニシテ、コレヨリ先キ秀吉ソノ他諸侯ノ特權ヲ得タリシガ、今檢地ニ當リテ御判ノ旨ニ任セ改メテ居屋敷ヲ免除セラレタルナリ。

敦賀郡西福寺ノ如キハ、境内ハ先規ノ旨ニヨリ、門前地ハ長老并ビニ村民ノ奔走ニヨリテ、竿入ヲ免除セラレシモノ、前後敷通ノ書狀之ヲ明證セリ。慶長二年六月十三日附門前政所ニ郎右衛門以下ノ連署シテ同寺鎮山長老ニ致セル書狀ニコレバ、

「今度御檢地について（中略）當寺竝門前に寺領等に至迄如前々無相違鏡山長老様へまいらせ候事我等式まで忝奉存候」

（西福寺文書）

トアリテ、由緒ヲ重ンジ檢地衆之ヲ除キタルナリ。故ニ七月十八日附檢地奉行木村宗右衛門尉ヨリ西福寺へ宛テタル書狀ニハ

「今度の御檢地について當寺領分之儀從前々郡帳に被相除御取納の筋目此度長東大藏大輔殿（御理候處被開分如先々無相違可有御寺納之由被申出候に付て御禮被仰入候御仕合之段陳重存候於拙者満足仕候然者寺門前共に少しも相替儀御座有間敷候」

（西福寺文書）

ト明言セリ。但シ除地ノ免許ハ容易ニ受クルヲ得ザリシモノニシテ、西福寺ト雖ソノ許諾ヲ受クルマデニハ非常ノ苦心ヲ拂ヘルナリ。同年六月二十九日大谷吉繼ノ書狀ニ

「（上略）隨て今度御檢地に付御寺領之儀無異儀被相除候由尤日出度存候縱御帳に入候共我等より可申達存候早速相濟申候段御才覺不及是非我等迄も太慶存候（下略）」（西福寺文書）

ト云ヘリ。吉繼當時敦賀城主トシテ西福寺鏡山ト懇情アリ。故ニコノ内報アリシナリ。然ルニ同年八月十一日附木村宗右衛門尉ヨリ西福寺ニ宛テタル書狀ニコレバ、コノ除地ニツイテハ門前衆

中ノ才覺モ關係スルトコロ少カラザリシト覺シク、左ノ文言アルヲ見ルナリ。

「今度御けんち衆に其村之しやう屋二郎右衛門才覺を、御馳走申候御事其村の御やうしや申田地之内二郎右衛門田地分に壹段四畝此分米貳石貳斗の田地分引續二郎右衛門に御渡し可被成候是は永代のふちに仕候御事殘ての分は惣なみにはいふん可被成候若其上何かと申者御座候は此書付を爲持京へ御のほせ可被下候(下略)」(西福寺文書)

即チ寺門前トシテノ除地ノ中、一部分ハ特ニ檢地ニツキ才覺シタル庄屋二郎右衛門ニ知行セシメ、他ハ門前中ニ等分スベキラ云ヘルナリ。

除地ノ第二ノ場合ハ檢地ニ際シテ種々ノ便宜ヲ與ヘタルモノニ對シ、代償トシテコレヲ許セシモノナリ。但シ事實上コノ便宜ヲ與ヘタルモノハ、即チ由緒ノ寺院豪族等ナレバ、單獨ニコノ理由ヨリ免除セラレタルモノハ少數ニ過ギザルナリ。コノ例證トシテ大野郡惠光寺文書ニ左ノ文言アリ。

以 上

「當郡爲御檢地罷越候ニ付御寺宿に仕種々御造作不及是非候何もの衆宿に取申候處は御檢地屋敷用捨候間速水申妻守へ申理無別儀屋敷之分相濟申候爲其令申候恐々謹言

七月十日(○慶長三年)

惠光寺御同宿中

御牧勘兵衛(花押)

檢地ニ際シテ生ジタル除地ノ種類ハコノ外尙錯雜セルモノ多シ。殊ニ門前地ノ場合ヲ最トス。コノ問題ハ材料ノ蒐集猶不足セルヲ以テ他日ニ保留セントス。

(六年三月三日再稿了)